

英国剣道連盟とのパートナーシップによる剣道修行体験

代表者 植田理太（ 武道課程 3年 ）

1. 目的と概要

本プロジェクトでは、イギリスの剣道指導法の中に日本の剣道離れを解消するヒントを見出すこと、私自身の実技力を向上させること目的とする。

イギリスの剣道指導法の中に日本の剣道離れを解消するヒントを見出すことについてはイギリスの剣士は青年期に剣道を始めて継続している人が多く、英国の剣道人口は増加している。そこで英国の剣道指導を体験することで、剣道の継続につながる指導法についてヒントを得たい。そして、剣道離れが進む日本で、中高生から剣道を始めた層の剣道継続につながる指導法について考察したい。そのために現地の大学剣道部や地域の道場で稽古に参加し、日本部活動や道場での稽古と比較したい。

私自身の実技力を向上させることについては、本学剣道部と英国剣道連盟が昨年締結したパートナーシップ協定を背景に、現地で剣士と稽古を重ね実技力向上につなげたい。日本ではなかなか感じることのできない外国人選手の高さやパワーのある動きや打突に対応できるようになりたい。また、現地での稽古では模範とならなければならないと考えている。そのような状況の中で今の私自身の技量を知りたい。

2. 実施期間

令和7年8月17日(月)～令和7年9月12日(金)

3. プロジェクトの実施内容

令和7年8月17日(日)イギリスへ到着

令和7年8月19日(火)虎道場で稽古

令和7年8月21日(木)虎道場で稽古

令和7年8月23日(土)KCLで稽古

令和7年8月24日(日)KCLで稽古

令和7年8月26日(火)虎道場で稽古

令和7年8月27日(水)若葉道場で稽古

令和7年8月28日(木)虎道場で稽古

令和7年8月30日(土)虎道場で稽古

か令和7年8月31日(日)椿道場で稽古

令和7年9月2日(火)レディング剣道クラブで稽古

令和7年9月3日(水)若葉道場で稽古

令和7年9月6日(土)スクワッドトレーニング(イギリス代表選手選考合宿)に参加

令和7年9月7日(日)スクワッドトレーニング(イギリス代表選手選考合宿)に参加

令和7年9月8日(月)オックスフォード大学剣道部の稽古に参加

令和7年9月9日(火)KCLで稽古

令和7年9月10日(水)オックスフォード大学剣道部の稽古に参加

令和7年9月11日(木)虎道場で稽古

令和7年9月12日(金)イギリスを出国

令和7年9月13日(土)日本に帰国



4. プロジェクトの成果・学内や地域への波及効果

本プロジェクトを通じて、イギリスにおける剣道の発展状況を現地で体験的に理解することができた。現地の剣道関係者と直接交流の中で、イギリス剣道の現状と今後の課題について意見交換を行うことができた。また、日本で実践されている稽古方法や取り組みについて紹介し、相互理解と技術向上を図ることができた。特に、イギリス代表選手の剣道の技量は高く、さらにイギリス剣道界をより良い方向へ発展させたいという意識も非常に強かった。彼らとの交流や稽古を通じて多くを学ぶことができ、私自身にとっても大変有意義な経験となった。

イギリス代表チームにおいては、本学卒業生である高波氏が監督、須藤氏がコーチとして就任しており、鹿屋体育大学の知名度は現地において高まっている。イギリス代表選手の選考合宿では、稽古への参加に加え、号令や技の見本を担当する機会もいただいた。さらに、本学独自の稽古法である「三段稽古」も見本を実施し、その後参加者で行った。この「三段稽古」は、KCL(キングス・カレッジ・ロンドン)をはじめ、いくつかの道場において継続的に取り入れられており、何人もの現地剣道関係者から「鹿屋体育大学で稽古をしたい」と言ってもらえることができた。本プロジェクトではイギリス剣道界との連携強化と本学の知名度向上、私の実技力向上という成果を挙げることができたと考えている。

5. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

反省点としては本来予定していた大学剣道部での稽古にあまり参加できなかったことが挙げられる。今回の渡英期間が現地大学生の夏休み期間となっていたため参加人数が少なく普段の部活動の様子を体験することはできなかったと考える。しかし、道場に所属している同年代の剣士たちと交流することはできた。

今回のプロジェクトを通してイギリスの剣道界の発展は世界の剣道界の発展につながると思った。イギリスはたくさんの国から人が集まっており、その人達は母国の剣道代表チームとしても活躍している。そこで、イギリスで剣道の正しい知識、稽古法を広めることは世界中にそれを伝えることにつながると考える。またイギリスでは各々が自分なりの目的、目標をもち稽古していて、それをまわりも認めていると感じた。また、先生も生徒と一緒に基本稽古から稽古に参加していた。日本と比べると生徒と先生の間の上下関係がなく先生も自分の技術が向上するために稽古をしているように感じた。今後の展望としてはアンケート調査などで感じたことをデータとして示し、日本の道場でもアンケート調査を行いイギリスとの比較をしたい。

6. 実施メンバー

代表者 植田理太 (武道課程 3年)

構成員 植田理太 (武道課程 3年)

7. 執行経費内訳

配分予算		円		
執行経費（品目等）	数量	単価（円）	金額（円）	備考
旅費・交通費	1	300,000 円	300,000 円	配分予算を旅費・交通費の一部に使用。 不足分は自己負担。

